

紀要

31

- 前期土偶の根本的性質と展開過程 ……………瀬口 眞司 (1)
- 近江の埴輪棺墓と地域間交流 ……………宮村 誠二 (15)
- 県内出土の木製人形代について ……………中村 智孝 (23)
- 古代中世の規格流通材「へぎ板」を考える ……………横田 洋三 (31)
- 将棋史研究ノート9
 —飛車と角行の登場— ……………三宅 弘 (38)
- 北朝期・室町期の近江における京極氏権力の形成…北村 圭弘 (47)

紀 要

第 31 号

平成 30 年（2018 年）3 月

公益財団法人滋賀県文化財保護協会

県内出土の木製人形代について

中村智孝

1. はじめに

上御殿遺跡は、湖西北部の高島市に所在する遺跡である。市域の南部に位置する安曇川や鴨川などによって形成された高島平野のなかでも、安曇川右岸の扇状地と沖積地が接する標高91m付近に立地している。この遺跡は、青井川の河川改修事業に伴って平成20年度より発掘調査が実施された。調査の結果、縄文時代から室町時代にかけての調査成果が得られ、なかには国内初となる双環柄頭短剣の鋳型の発見といった全国的にも注目される成果もみられた。このような調査成果のひとつに、河道から多数出土した古墳時代から平安時代にかけての木製祭祀具を上げることができる。木製祭祀具は、古墳時代後期の刀形代や斎串、奈良時代から平安時代にかけての人形代や馬形代、舟形代、陽物、斎串といった様々な種類のものが確認されており、種類の豊富さや出土量などの点から県内でも貴重な資料といえる。これらについては、現在整理調査を進めて報告書を作成中であり、詳細についてはその中で報告することとなっている。

本稿では報告に向けた作業として、人形代について、これまでの出土事例から県内での様相を概観することを目的として記していきたい。

2. 木製人形代について

人形代は、主に奈良時代や平安時代に使用された祭祀具のひとつとして知られている。木製のものが広く使用されており、土製や金属製、滑石製といった素材のものも存在している。

木製の人形代では、前期難波宮の水利施設関連遺構から出土した7世紀中頃のもの最古の事例として知られ、遅くともこの時期には使用されていたことがわかっている(財団法人大阪市文化財協会2000)。その後の藤原京や平城京などの都城を中心に、各地の官衙遺跡や官衙関連遺跡などから出土している。

これらの人形代は、正面、側面、立体といった形態のものがあり、なかでも正面全身像のものが多数を占める。この姿をしたものについては分類がなされ、年代による形態の変化がこれまでの研究によって明らかにされている。

先行研究を踏まえて新たな編年案を示された大平氏の研究によれば(大平2008)、これまでに示された分類の基準となる要素は、①頭部(顔)の形態表現、②首部から肩部の切り欠きの変化、③手の表現の有無、④腰部の切り込みの有無、⑤脚部の切り込み形態、⑥大きさがある。なかでも編年をおこなううえで有効なのは②・③・④であり、これら

の要素をもとに新たな編年案が示された(表1)。

編年で基準とされたのは、手の有無と肩部の切り欠き形態である。基準において優先された手の有無については、手を切り込みで表現するもの(I類)、手を切り欠きで表現するもの(III類)、切り込みと切り欠きの両方の手を表現するもの(II類)、手を表現しないもの(IV類)に分類されている。切り込みによる手の有無はこれまでも分類の基準として用いられていた要素であるが、切り欠きによるもの手の表現にとらえ、分類の要素に加えられた。

ただし、切り欠きを手とすることについては、II類のように両方存在するものがあることから腰を表現しているとする見方も示されている。切り欠きを手としたもの(III類)のなかには、手と腰を表現するものが混在している可能性もあるが、いずれにしても形態的な違いを示す要素として設定されている。

これらを細分する基準として用いられたのが、肩部の切り欠き形態である。切り欠きによって表現される肩部の形から「撫で肩」と「怒り肩」と表現されるもので、8世紀後半の長岡京期に出現する「怒り肩」の存在は編年上の重要な画期とされ、多くの研究において注目されてきた。新たに「撫で肩」のものに下方の切り込みが長くなるものを加えて、撫で肩(a類)、下がり肩(b類)、怒り肩(c類)、首なし(d類)に分類されている。

以上から4類16形式の分類が設定され、I類a形式からはじまった人形代は、I類b形式・II類a・b形式が8世紀中頃、I・II類c形式が8世紀第4四半期(長岡京期)、III類・IV類が9世紀中頃に出現すると、その変遷が考えられている。特に、I類c形式の始まりとIII・IV類の出現が大きな画期であるとされている。(表2)

なお、これらのうちI類a形式とc形式は、全国の遺跡から出土した点数が圧倒的に多く、正面全身像の木製人形代における基本形態とされている。

3. 県内の出土事例について

正面全身像をした木製の人形代が出土した県内遺跡は、上御殿遺跡を含め23遺跡を確認することができた。それらについて、県内を4つの地域に分けて以下に記していきたい。ただし、現在整理調査を実施している上御殿遺跡は今回集成した以上の点数が出土しているが、調査成果を報告していないため含めていない。また、紫香楽宮とされる甲賀市宮町遺跡(23-図1、表3・4の番号を示す。以下同様)からは人形代が出土しているものの、分類などが行えなかったため同様に含めていない(甲賀市教育委員会2007)。今回

型式 類	型式類				型式 類	型式類					
	a	b	c	d		a	b	c	d		
I 類					III 類						
	藤原京	兵庫・袴狹遺跡	長岡京	藤原京		静岡・神明原元宮川遺跡	静岡・神明原元宮川遺跡	和歌山・野田遺跡			
	II 類						IV 類				
		静岡・伊場遺跡	静岡・伊場遺跡	兵庫・袴狹遺跡				藤原京	静岡・神明原元宮川遺跡	平安京	平安京

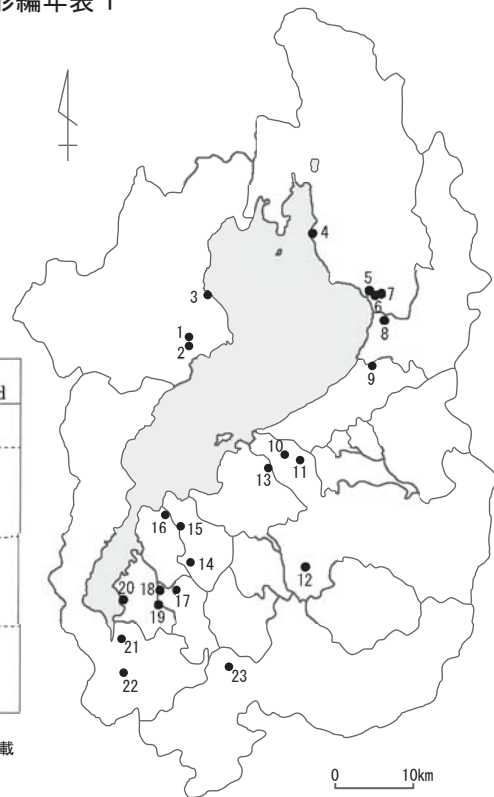
※大平2008より転載

表 1 木製人形編年表 1

	I 類				II 類				III 類				IV 類			
	a	b	c	d	a	b	c	d	a	b	c	d	a	b	c	d
7C 後																
8C 前																
8C 中																
8C 後																
9C 前																
9C 中																
9C 後																
10C 前																
10C 中																
10C 後																

※大平2008より転載

表 2 木製人形編年表 2



※1は、上御殿遺跡。
その他は、本文・表に対応

図 1 遺跡位置図

対象とした遺跡は21遺跡で、点数は65点を数えた。

湖西地域

琵琶湖西岸の湖西地域では、北部にある鴨遺跡(2)と針江川北遺跡(3)で確認されている。いずれの遺跡も上御殿遺跡と同じく高島平野に所在する遺跡で、湿地や湖岸に近い場所に立地する。鴨遺跡(2)は高島郡衙とされる遺跡で、湿地に堆積する厚さ40cmのスクモ層から、I類c形式1点が出土している。同じ土層から出土した木製品には、斎串、陽物といった祭祀具が含まれているほか、仏像や貞観十五年(873)の長大な木簡などが出土している。出土した土器の年代には、8世紀後半から9世紀初頭と9世紀後半から10世紀初頭の年代のものがみられる(高島町教育委員会・滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1980、滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2005b)。

針江川北遺跡(3)では、16世紀の溝(SD11)から1点出土している。胴部下半から脚部が欠損しているため、I類もしくはII類のc形式である(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1993)。

湖北地域

湖北地域では、余呉川河口に位置する尾上遺跡(4)や長浜平野の湖岸近くに位置する神宮寺遺跡(5)、鴨田遺跡(6)・大戊亥遺跡(7)、狐塚遺跡(8)で確認されている。

尾上遺跡(4)では、湖辺の堆積層から10点出土している。I類c形式が主体で、分類ができないものでもc形式のものが多く、1点のみa形式のもの(3 図4の番号を示す。以下同様)が含まれている。これらは、直径10m程度の範囲に同一の高さからまとまった出土状況をしめすことから、一度に流れついたものとされる。人形以外にも馬形代や斎串といった祭祀具などが出土しており、同じ祭祀に使用された道具の可能性も想定されている。なお、馬形代には「黒毛口」と墨書があり、判読が困難な文字は「祓」の可能性が考えられている(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1985・2003)。

神宮寺遺跡(5)は、河道(SR01)からI類a形式1点が出土している。河道は、3世紀末から7世紀中頃の遺物を含み、4時期の変遷が示されている。木製品には、斎串、鳥形、舟形、刀形、剣形、鏃形といった祭祀具が出土しており、このうち人形代と斎串は同じ時期(6世紀後半～7世紀初頭)の土器と供伴するとされる(長浜市教育委員会2004)。

鴨田遺跡(6)と大戊亥遺跡(7)は隣接する遺跡で、これらの遺跡で確認された連続する河道から人形代が出土している(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1997、長浜市教育委員会1999・2003)。人形代は25点を数え、I類c形式を主体にI類a形式(19)やIV類b形式(45)も認められる。大戊亥遺跡では、8世紀後半から9世紀前半

の土器が出土した河道(SR-1)の埋土から、人形代・斎串・刀形代が出土しており、人形代や斎串が集中して分布する状況が確認されている。この付近からはI類a形式とc形式(45以外)が主に出土している(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1997)。また、同遺跡の異なる調査では斎串や土馬が出土している(長浜市教育委員会2003)。

このほか、狐塚遺跡(8)では河道への落ち込み遺構から斎串とともにI類c形式1点が出土している(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1988)。堆積層は、7世紀代を中心とした6世紀末から8世紀初めの下層と、10世紀後半から11世紀の上層に分けられ、その上層から出土している。

湖東地域

湖東地域では、内湖近くの河道合流部に立地する彦根市六反田遺跡(9)、愛知川下流域の左岸に位置する東近江市石田遺跡(10)と斗西遺跡(11)、日野川支流の佐久良川左岸に位置する杉ノ木遺跡(12)、内湖に形成された砂洲上に立地する近江八幡市大中の湖南遺跡(13)で確認されている。

六反田遺跡(9)は奈良時代から平安時代初頭の港湾施設をとまなう官衙関連遺跡で、6世紀後半から10世紀の遺物を含む河道(河道南)から人形代6点が出土している。I類d形式(2106)、I類もしくはII類のc形式(1545)が出土しているほか、IV類のa形式(2121)・b形式(1543)・d形式(1544)がある。人形代以外の祭祀具では、斎串や土馬が出土している(滋賀県教育委員会・公益財団法人滋賀県文化財保護協会2013)。

斗西遺跡(11)では河道から人形代2点が出土しており、大型(全長45cm以上)のIII類もしくはIV類にあたるもの(97)がある(能登川町教育委員会1988・1993)。この人形代が出土した河道は、弥生時代末から平安時代の遺物を含み、木製品のなかには斎串、剣形、刀形、矢形、舟形などの祭祀具がみられる。人形代と同じ土層からは、刀形代、斎串が出土している(能登川町教育委員会1988)。

大中の湖南遺跡(13)では、大型(全長42cm以上)でIII類c形式の人形代1点が出土している。これは、石敷きを伴った突堤状の遺構を覆う12世紀中頃から13世紀中頃の遺物を含む土層(第7層)の直上に堆積した細砂層から出土している。第7層の下層からは斎串などの祭祀具が出土しているものの、同じ土層からは他の祭祀具は出土していない(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2005a)。

このほか、石田遺跡(10)では溝の底で確認された土坑から斎串とともにI類b形式1点が出土し(能登川町教育委員会能登川町埋蔵文化財センター2005)、杉ノ木遺跡(12)では河道から斎串と舟形代とともにI類a形式1点が出土している(東近江市教育委員会・東近江市埋蔵文化財センター2009)。

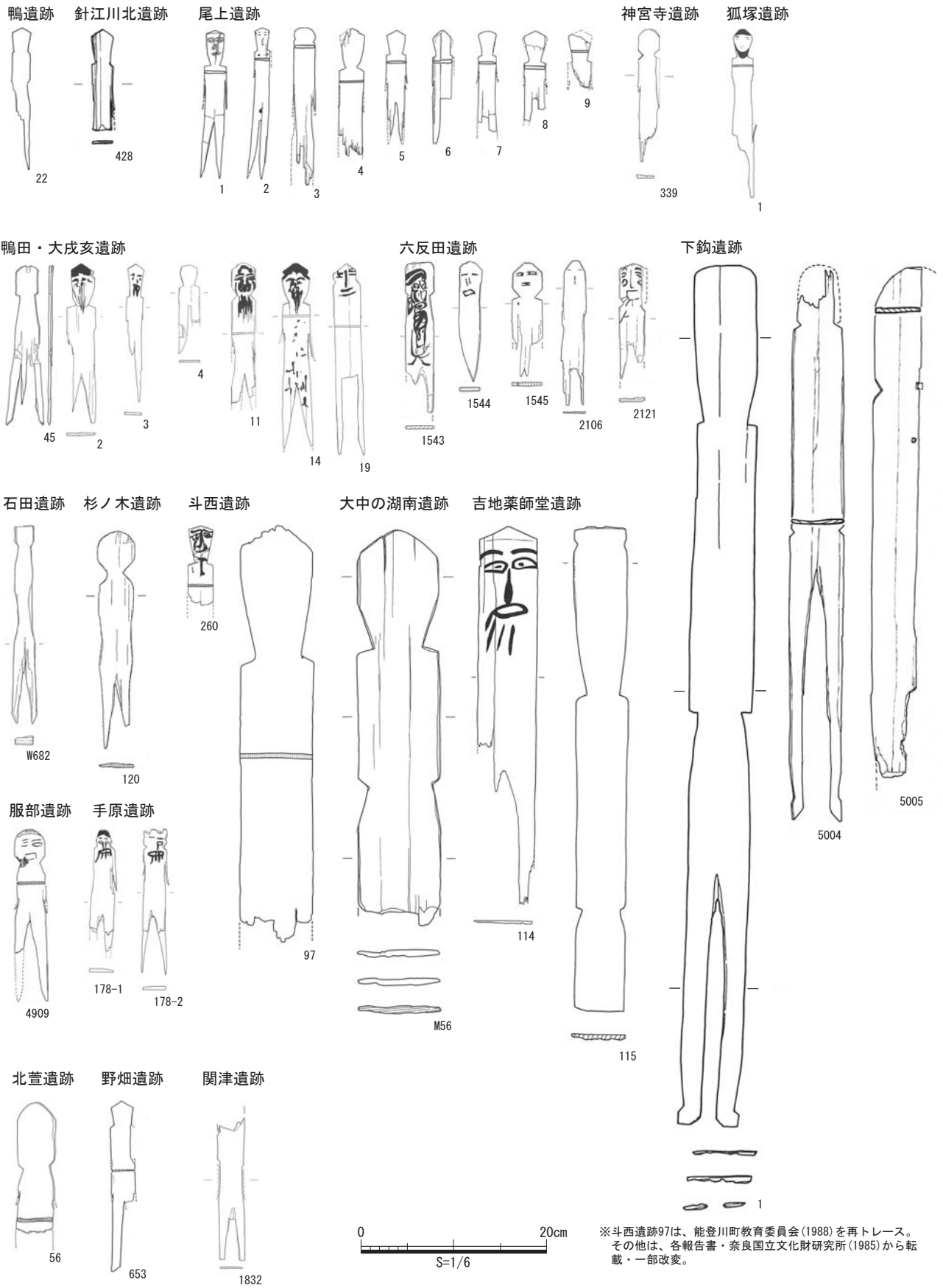


図2 県内出土の主な木製人形代

湖南地域

この地域では、野洲川流域に立地する野洲市中畑古里遺跡(14)・同市吉地薬師堂遺跡(15)・守山市服部遺跡(16)、葉山川流域の栗東市手原遺跡(17)・同市下鉤遺跡(18)、草津川左岸に位置する草津市大定木遺跡(19)・北萱遺跡(20)、瀬田川近くに位置する大津市野畑遺跡(21)・関津遺跡(22)で確認されている。

中畑古里遺跡(14)では、河道の最下層から大型(全長72cm以上)でⅡ類c形式の人形代1点が斎串とともに出土している(滋賀県埋蔵文化財センター2007)。吉地薬師堂遺跡(15)では、堆積層から大型の人形代2点が出土している。ひとつはⅣ類d形式(114)で、もうひとつはⅢ類c形式の要素を備えた脚部のない特殊な形態のもの(115)である。同じ土層からは、斎串が出土している(中主町教育委員会1990)。中里古里遺跡は新しい時期の野洲郡衙とされる小篠原遺跡の近くに所在する遺跡で、吉地薬師堂遺跡は古い時期の野洲郡衙とされる西河原遺跡群のひとつである(畑中2008)。

手原遺跡(17)は古代寺院や官衙が存在した遺跡で、唯一井戸から人形代が出土している。高床倉庫群が確認された南区画にある井戸(SE492)から、Ⅰ類a形式のものが2点出土している。これらは、頸部を意図的に打ち欠いた須恵器壺(8世紀後半)の中に脚部を折って納められていた。同じ井戸からは斎串が出土している(財団法人栗東市体育協会2013)。

下鉤遺跡(18)では河道から人形代4点が出土しており、このうち3点は大型のものである(財団法人栗東町文化体育振興事業団1990、滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2005c、奈良国立文化財研究所1985)。大型(全長92.4cm)でⅢ類c形式のもの(1)は、河道が埋没する過程でできた溝状の小流の痕跡に堆積した土層から出土している。この小流は、河道が埋没したのちに形成される12世紀後半から13世紀前半の屋敷地に伴う整地層に覆われている(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2005c)。このほかは、9世紀から12世紀の河道上層から出土している。

野畑遺跡(21)は近江国庁に関連する官衙の遺跡で、河道(SD001)からⅠ類c形式のものが出土している。河道は流れがあまりない泥湿地状の堆積で、8世紀末から9世紀前半の同じ土層からは斎串や木沓、曲物、挽物皿などの木製品が出土している(滋賀県教育委員会1994)。

関津遺跡(22)は8世紀中葉から9世紀中葉にかけての官衙で、溝(S3)の下層(8世紀中頃から9世紀初頭)からⅠ類に分類される人形代1点が出土している(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2007)。

このほか、服部遺跡(16)ではⅠ類b形式1点が8世紀後葉の溝から出土し(奈良国立文化財研究所1985)、大定木遺跡(19)ではⅢ類a形式とみられるものが平安時代の溝(SD1)か

ら出土している(草津市教育委員会2013)。さらには、北萱遺跡(20)では上半部が河道(河道2)から出土している(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1994)。

4. まとめ

以上の出土事例から確認できた事柄を示し、まとめとしたい。分布については、概ね県下全域に認めることができる。確認できた遺跡には、湖西地域の鴨遺跡、湖東地域の六反田遺跡や吉地薬師堂遺跡、湖南地域の手原遺跡や野畑遺跡、関津遺跡といった官衙遺跡もしくは関連遺跡がある。これまでに指摘されているように、官衙などの場所では人形代を使った祭祀が行われていたことを示している。

人形代の分類では、全国的な傾向と同じくⅠ類のものが多くの遺跡で確認されている。もっとも古い形態である「撫で肩」をしたⅠ類a形式のものは上御殿遺跡でも確認されていることから(公益財団法人滋賀県文化財保護協会2012)、県内全域で分布を認めることができる。この形態の人形代に代わって出現する「怒り肩」をしたⅠ類c形式のものは、8世紀第4世半期になって出現することから、遅くともこのころまでには人形代の祭祀が広がっていたといえる。

切り込みによる手の表現がないⅢ類やⅣ類のものは、平安時代(9世紀中頃)になって出現する形態のものである。県内で出土したこの形態のものをみると、全長40cm以上のものが多く見られ大型化の傾向をうかがうことができる。大型のものは、中畑古里遺跡でⅡ類c形式のものがあるものの、これらの2類では半数程度が大型のものとなっていることから、多く使用されていたことがわかる。このような大型の人形代については、人形代に背負わせる罪障を強く意識された場合やそうした不祥を除こうとする強い意志が働く場合、或いは極めて優れた人の場合などには、等身のものや等身をはるかにこえる人形代すら現れてくるという見解が示されている(水野1976)。また、兵庫県にある袴狹遺跡から出土した大型の人形代には、「一人當千急々如律令」と墨書されたものがあり、より高い効果を期待したものであったと考えられている(兵庫県教育委員会2000)。人形代の形とともに、扱いにも変化があったとみられる。

大中の湖南遺跡では、12世紀中頃から13世紀中頃の堆積層よりも新しい堆積層から出土している。内湖の堆積であるため、遺物の年代を判断する資料としては問題が残るものの、13世紀頃までは人形代が使用されて可能性があるだろう。

人形代とその他の祭祀具の出土状況を確認したところ、多くの遺跡で同じ遺構から出土していたのは斎串のみであった。河道や堆積層などから出土したのが多いため供伴する遺物を正確に把握することは困難であるが、尾上遺跡・大戌亥遺跡・手原遺跡・野畑遺跡のように出土状況から供伴する可能性が高いものもあることを考慮すると、人形代

と齋申の組み合わせは共通して用いられていたとみられる。山形県依田遺跡では、人形代とともに人面墨書土器、須恵器小甕、木製の刀形代・馬形代・齋申などの祭祀遺物が祭場として配置されたままの姿で出土しており、祭祀具を組み合わせて使用されたことなどが確認されている。尾上遺跡のように馬形代が同じ祭祀のなかで使用された可能性が指摘されるものもあるが、齋申以外については共通して認められるものはなく、人形代との関係は把握できなかった。

出土した遺構は、河道や溝、湖岸などの堆積層がみられ、手原遺跡のみ井戸から出土している。人形代は、呪い、病氣治癒、祓などに用いられた。なかでも、古代においては罪や穢れを流す祓に使用されるのが一般的であったとされている(金子1988)。また、これらの祭祀遺物は、捧げ物といった性格の祓具や神祭りに使用する道具であったとする意見や(三宅2008)、両者の性格が時代の流れのなかで変化したとする意見もある(笹生衛2012)。木製品が遺存しやすいこれらの遺構の周辺では、人形代を用いた祭祀などが行われ、河道や湖岸、溝が見つかった遺跡では流したり捧げたりすることが行われたとみられる。井戸の事例については、平城京で確認された同様の事例から呪詛の可能性が考えられている(財団法人栗東市体育協会2013)。数少ない事例であることから、特別な目的での使用だったのだろう。

はじめに記したように、上御殿遺跡では人形代を含む多くの祭祀具が出土している。今回確認した県内での様相を踏まえて検討を行い、報告を行いたい。

註

(1)本稿では、出土点数の多い30cmまでのものより大きなものに対して「大型」と分類している。

文献(著者名・刊行機関名50音順、刊行年順)

- 大平茂(2008)「木製人形年代考」『祭祀考古学の研究』株式会社雄山閣
- 金子裕之編(1988)『律令期祭祀遺物集成』
- 草津市教育委員会(2013)『草津市文化財年報20』
- 公益財団法人滋賀県文化財保護協会(2012)「上御殿遺跡発掘調査現地説明会資料」
- 甲賀市教育委員会(2007)『よみがえらそう紫香楽宮一甲賀寺と紫香楽宮一』
- 国立歴史民俗博物館(1985)『国立歴史民俗博物館研究報告』第7集
- 財団法人大阪市文化財協会(2000)『難波宮址の研究 第十一』
- 財団法人栗東市体育協会(2013)『栗東市埋蔵文化財調査報告2011(平成23)年度 年報』
- 財団法人栗東町文化体育振興事業団(1990)『1980～1982年度栗東町埋蔵文化財発掘調査 資料集』
- 笹生衛(2012)「人形と祓物—土製人形の系譜と祓の性格を中心に—」『国学院雑誌』第113巻第11号
- 滋賀県教育委員会(1994)「大津市野畑遺跡第二次調査報告」『平成4年度滋賀県埋蔵文化財調査年報』
- 滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会(1985)『尾上遺

- 跡発掘調査報告書』
- 滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会(1988)『狐塚遺跡・法勝寺遺跡』(一般国道8号(長浜バイパス)関連遺跡発掘調査報告書V)
- 滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会(1993)『針江川北(II)遺跡・吉武城遺跡』(一般国道161号(高島バイパス)建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書V)
- 滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会(1994)『北萱遺跡発掘調査報告書』(草津川改修事業に伴う発掘調査報告書)
- 滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会(1997)「大戊亥遺跡」『長浜新川中小河川改修工事に伴う発掘調査報告書V』
- 滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会(2003)『琵琶湖北東部の湖底・湖岸遺跡』(琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書7)
- 滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会(2005a)『芦刈遺跡・大中の湖南遺跡』(ほ場整備関係(経営体育成基盤整備事業)遺跡発掘調査報告書32-2)
- 滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会(2005b)『滋賀県緊急雇用創出特別対策事業に伴う出土文化財資料化収納業務報告書II-1』
- 滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会(2005c)『下鈎遺跡』(中ノ井川放水路事業に伴う発掘調査報告書2)
- 滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会(2007)『関津遺跡I』(ほ場整備関係(経営体育成基盤整備事業)遺跡発掘調査報告書34-2)
- 滋賀県教育委員会 公益財団法人滋賀県文化財保護協会(2013)『六反田遺跡I』(中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書3-1)
- 滋賀県埋蔵文化財センター(2007)「滋賀埋文ニュース」第321号
- 高島市教育委員会・滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1980『鴨遺跡』(高島町歴史民俗叢書第二輯)
- 中主町教育委員会(1990)『吉地薬師堂遺跡第2次発掘調査報告書I』(中主町文化財調査報告書 第22-1集)
- 長浜市教育委員会(1999)『鴨田遺跡発掘調査報告書』(滋賀県長浜市埋蔵文化財調査資料第30集 第12次調査(店舗建設に伴う調査))
- 長浜市教育委員会(2003)『福満寺遺跡・大戊亥遺跡発掘調査報告書』(滋賀県長浜市埋蔵文化財調査資料 第21集 福満寺遺跡第1次、第2次調査・大戊亥遺跡第12次調査(長浜市勝土地区画整理事業に伴う事前調査))
- 長浜市教育委員会(2004)『神宮寺遺跡—マンション建設に伴う発掘調査報告書—』(長浜市埋蔵文化財調査資料 第54集)
- 奈良国立文化財研究所(1985)『木器集成図録 近畿古代篇』史料第27冊
- 能登川町教育委員会(1988)『斗西遺跡』(能登川町埋蔵文化財調査報告書 第10集)
- 能登川町教育委員会(1993)『斗西遺跡(2次調査)』(能登川町埋蔵文化財調査報告書 第27集)
- 能登川町教育委員会 能登川町埋蔵文化財センター(2005)『石田遺跡』(能登川町埋蔵文化財調査報告書 第58集 能登川町西土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書)
- 畑中英二(2008)「考古学からみた西河原遺跡群」『古代地方木簡の世紀—文字資料から見た古代の近江—』(第36回企画展・滋賀県文化財保護協会調査成果展)滋賀県立安土城考古博物館
- 東近江市教育委員会 東近江市埋蔵文化財センター(2009)『東近江市埋蔵文化財調査報告書 第11集』(国営日野川農業水利事業

に伴う調査)

兵庫県教育委員会(2000)『袴狭遺跡』兵庫県文化財調査報告第197冊

水野正好(1976)「等身の人形代」『京都考古』第21号 京都考古刊行会

三宅和朗(2008)「律令期祭祀遺物の再検討」『古代の王権祭祀と自然』株式会社吉川弘文館

山形県教育委員会(1984)『俵田遺跡 第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書 第77集

(なかむら ともたか：調査課 副主幹)

平成30年（2018年）3月31日

紀 要 第 31 号

編集・発行：公益財団法人滋賀県文化財保護協会
520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2
(TEL) 077-548-9780 / (FAX)077-543-1525
e-mail: mail@shiga-bunkazai.jp
<http://www.shiga-bunkazai.jp/>

印刷・製本：マルキ印刷株式会社